

ボールペンと付箋と特技懇

～特技懇、記念品完成のお知らせ～

記念品企画委員会

特技懇ではこれまでさまざまなツールを活用して、特技懇の活動を積極的に情報発信してまいりましたが、平成24年度は新たに、記念品の企画・作成を行いました。この度、2種類の記念品（「ボールペン」、「付箋」）が完成しましたので、この誌面をお借りして、ご紹介させていただきたいと思っております。

●記念品企画・作成の経緯

毎年実施されている国際審査官協議・会合等において、外国の審査官が記念品を贈ってくれるのに、日本の審査官からお返しする記念品がないのは残念だという声がありました。そこで、特技懇では、諸外国の審査官との交流をより深めてもらえるように、記念品を作成することにし、年度当初の特技懇代議員総会において、特別委員会として「記念品企画委員会」を設置し記念品の企画・作成を行うことについて承認を受けました。その後、全正会員から公募した5名の委員からなる記念品企画委員会によって、記念品の検討を続けてきました。

委員会では、まず始めに記念品のコンセプトを設定するために、記念品の趣旨に沿うキーワードの抽出を行いました。以下、抽出された主なキーワードです。

「日本らしさ、歴史性、文化性、おもてなしの心、クールモダン、現代性、先進性、技術力、情報発信、ポータブルで小さいもの、丁寧な仕事、Quality of life」

次に、これらのキーワードに合致するような記念品について、各委員が意見を出し合い、完成後の記念品の使用場面を想定しながら、議論を行いました。また、記念品候補を、販売品の実地調査やインターネットでの調査を通じて絞り込みました。そして、絞り込まれた記念品候補については、製造業者に記念品企画委員会の場で、製品の特徴などをプレゼンテーションしてもらい、検討を進めました。最終段階では、製品のデザイン性のみならず、価格、納期、名入れの可否等、具体的な実現可能性の検討を行いました。

このような検討の結果、最終的には、歴史性、文化性を感じることができ、さらに現代性、日本らしい技術力も感じることができ、洗練されたデザインに仕上げられた「ボールペン」及び「付箋」に決定しました。また、ボールペン、付箋のデザインの背景にある日本文化に関する英語説明文もつけることで、海外への情報発信も目指すことになりました。

●記念品配布方法

(1) 記念品の配布について

記念品は、主に特技懇正会員が国際審査官協議・会合等の場で交流を深めた海外審査官に配布する予定です。

該当する会合や数量等に制限がありますので、海外審査官に配布を希望する場合は事前に（配布の少なくとも3週間前）に特技懇にご相談ください。なお、配布先等については特技懇からお尋ねさせていただきますので、ご了承ください。

(2) 記念品配布のお問い合わせ先

特許庁技術懇話会 記念品担当 gift@tokugikon.jp

完成した記念品

(1) ボールペン



このボールペンに用いられている紋様は、東京国立博物館所蔵の法隆寺献納宝物、国宝「灌頂幡」をもとに作成されています。（ボールペンクリップには「JPO」の名入れがあり、ボールペンケースは特技懇の名入りのケースカバーで包装されています。さらに、英語説明文が別紙で付きます。）このボールペンは、黒、赤の2色ボールペンの機能と0.5mm芯のシャープペンシルとしての機能が付いています。

(2) 付箋



富士山の部分が付箋として使用できます。台紙に雲などがデザインされています。（台紙裏面に英語説明文が印刷されています。）

(3) 今回作成された記念品一式



左側にはボールペン、ボールペンのケース、ケースカバー、ボールペンの英語説明文、右側には付箋、付箋用の専用封筒が並べられています。

Profile (記念品企画委員会委員)

井上 雅博	審判部第23部門：特技懇代表委員
高岡 裕美	審判部第20部門
小柳 崇	審査業務部生活用品：特技懇常任委員
千葉 祥子	審査業務部産業機器：特技懇常任幹事
中村 純典	審査業務部産業機器

(平成25年3月現在)